

今後の県市間の協議について

1 概要

- 宮城県が進める病院再編に関し、仙台赤十字病院と県立がんセンターの統合による政策医療への影響や仙台赤十字病院移転後の八木山周辺エリアの医療機能の確保など、検討課題が残る。
- 富谷市の病院公募により、東北医科薬科大学が仙台市内の2つの附属病院を再編して富谷市に新病院を開設する動きが進んでおり、仙台医療圏の医療体制に変化が予想される。
- 一方、令和8年度より次期地域医療構想の策定に向けた検討が開始される予定であるが、仙台医療圏は仙台市の人口が約7割を占めている現状を踏まえると、医療圏における議論と仙台市域の医療に関する議論は密接な関りがあることから、県市連携した検討が求められる。
- こうした状況を踏まえ、県市間で仙台市及び仙台医療圏の現状や課題の認識を共有し、将来も見据えた医療提供体制のあり方について議論を行う「新たな協議の場」に移行する。

2 これまでの県市協議を踏まえた今後の検討課題

- 仙台赤十字病院と県立がんセンターの移転統合、富谷市への新病院整備を含む東北医科薬科大学附属病院の再編など、医療機関の移転に伴う地域に与える影響や医療提供能力の変化を踏まえた、仙台市・仙台医療圏の救急・周産期等の様々な政策医療への影響や対応策の検討が必要。
- 特に、今後の高齢化の進展に伴う救急需要のさらなる増加を見据え、救急搬送を含む仙台市・仙台医療圏の救急医療体制を構築していく必要がある。なお、病院再編に関する県市協議において議論してきた4病院再編による救急搬送への影響シミュレーションについては、東北労災病院と県立精神医療センターの移転・合築の検討終了に伴い前提条件に大きな変化が生じていることから終了とする。
- 仙台赤十字病院移転後の八木山周辺エリアの医療機能確保の具体策を地域にできる限り早期に提示し、理解を得る必要がある。

3 「新たな協議の場」への移行について

- これまでの県市間での協議も踏まえ、仙台医療圏における医療の現状や課題、対応と進め方などについて確認・整理のうえ、県市間でテーマに応じて必要な協議を行う。
- 協議事項
 - (1) 仙台市及び仙台医療圏の医療提供体制のあり方
 - 次期地域医療構想の策定も見据え、仙台市・仙台医療圏の医療提供体制の現状や課題の認識を共有。
 - 適切で切れ目のない医療提供体制の確保に向けて、中長期的な視点も持ちながら、医療提供体制の目指すべき姿、課題への対応について議論。
 - (2) 仙台赤十字病院移転後の地域の医療機能確保
 - 病院移転後の八木山周辺エリアの医療機能確保に向けた協議を継続。